

平成31年3月11日
成瀬ダム工事事務所

第3回 成瀬ダムモニタリング委員会 審議結果について

成瀬ダム建設事業は、平成11年5月に閣議アセスに基づく環境影響評価書が公告・縦覧され、一連の環境影響評価手続きが終了しています。

成瀬ダム建設事業の実施においては、平成11年から施行された環境影響評価法や最新の知見等を踏まえ、環境への配慮が必要な事項について、環境の個別分野ごとに専門家の指導・助言を得ながら、成瀬ダム周辺環境の現地調査を継続し、環境保全の検討を行うとともに、既にその一部は対策を実施してきました。

今後予定しているダム建設工事中の環境保全措置等を適切に実施していくため、工事中の環境モニタリングについて、専門家から指導・助言を得る「成瀬ダムモニタリング委員会」を平成29年3月6日に設立しました。

今回の第3回委員会では、平成30年度モニタリング調査結果及び平成31年度モニタリング調査計画について審議しました。

■開催日時：平成31年3月11日（月）14：00～16：00

■場 所：ホテルメトロポリタン秋田 3階 ジュエルA

成瀬ダムモニタリング委員会 委員名簿

専 門	氏 名	所 属	役 職
水工学	(委員長) 松富 英夫	秋田大学大学院理工学研究科	教授
底生動物	青谷 晃吉	大仙市立平和中学校	非常勤講師
植物	井上 正鉄	秋田大学	名誉教授
哺乳類・鳥類、両生類・爬虫類	小笠原 嵩	秋田大学	名誉教授
陸上昆虫類	佐々木 明夫	日本鱗翅学会	会員
魚類	杉山 秀樹	NPO法人秋田水生生物保全協会	理事長
水環境	野池 達也	東北大学	名誉教授

敬称略、50音順

第3回 成瀬ダムモニタリング委員会の審議結果（要旨）

1. 平成30年度のモニタリング調査結果について

- 平成30年度のモニタリング調査結果について審議した。

① 水質調査（別紙－1参照）

<調査概要>

- 平成4年度より調査を継続実施している。
- 調査項目は、一般項目（水温、濁度）、生活環境項目（pH、BOD、SSなど9項目）、富栄養化項目（全リン、全窒素）健康項目（カドミウム、シアンなど24項目）を調査。

【審議結果】

- 成瀬ダム建設工事に伴う影響はほとんど無いと考えられる。
- 工事に伴う影響を把握するため、今後も調査を継続するものとする。

② クマゲラ調査（別紙－2参照）

<調査概要>

- 平成5年度より、クマゲラの生息の有無と、クマゲラが生息している場合の生息範囲を確認するための調査を継続実施している。

【審議結果】

- クマゲラのものと同様に推察される痕跡は、湛水域などのダム建設事業地内のほか、ダム建設事業地外にも多数確認しており、生息している可能性はあるが、クマゲラを直接確認できていない。
- ダム建設事業地は、そのうち一部であり、影響はないと考えられるが、クマゲラの生息状況の把握のため、今後も調査を継続するものとする。

③ 移植済み植物のモニタリング調査（別紙－3参照）

<調査概要>

- 平成17年度に工事箇所には生育する希少種6種（エゾノチャルメルソウ、イトモ、ナベクラザゼンソウ、アイズスゲ、エビネ、イヌマムカゴ）を移植し、モニタリング調査を継続実施している。

【審議結果】

- 個体数が減少した種もあるが、近年は安定しており、移植後の状況は概ね良好であると考えられる。
- 移植済みの6種の内、イトモ以外の5種は移植先で定着したと考えられるので、平成30年度の調査をもってモニタリングを一旦終了とし、次回は試験湛水前の平成35年に実施する。イトモについては引き続き調査を行い、定着状況を確認するものとする。

④ 希少猛禽類調査（別紙－4参照）

<調査概要>

- 平成8年度に調査を開始し、平成10年度に「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」を設立し、鳥類の専門家の指導・助言を得ながら調査を継続実施している。

【審議結果】

- ※「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」で審議しているため、当委員会では審議なし。

⑤ 魚類調査（別紙－５参照）

<調査概要>

- ・平成7年度、平成17年度～平成18年度、平成25年度～平成29年度に調査を実施。
- ・平成26年度からはダム事業による影響を定量的に把握するため、「釣りで親しまれている魚類」及び「成瀬川に多く生息する魚類」である6種（アユ、ヤマメ、イワナ類、ウグイ、エゾウグイ、カジカ）について、同一箇所、同一手法で年3回（春季、夏季、秋季）の調査を実施している。
- ・平成30年3月26日に転流工（河道切替）、平成30年度からは本体工事に着手しているため、平成30年度は、H26～H29の調査結果を基に、ダム事業の影響を把握する。

【審議結果】

- ・確認個体数に変動はあるものの、調査対象6種は安定的に確認されている。
- ・エゾウグイ、ウグイ、カジカは当歳魚が確認されており、河道切替後も再生産（繁殖）が行われている。
- ・現時点で工事に伴う影響は小さいと考えられるが、工事中の調査、供用後の調査を継続して行うことにより魚類への影響を把握するものとする。

2. 平成31年度のモニタリング調査計画

- ・平成31年度のモニタリング調査計画について審議した。
- ・平成31年度の調査項目は、平成30年度の調査項目を継続するほか、湛水区域内の移植対象種の移植及び下流河川の河川環境調査（底生動物、付着藻類、岩盤状況等）を行う。

【審議結果】

平成31年度のモニタリング調査計画について了承された。

以 上

第3回 成瀬ダムモニタリング委員会の審議結果（調査結果）

1. 平成30年度のモニタリング調査結果について

・水質調査（別紙－1参照）

<調査結果>

- ・平成30年度の調査結果は、例年同様、概ね環境基準値内であった。

① クマゲラ調査（別紙－2参照）

<調査結果>

- ・平成30年度の調査結果は、新たに3箇所のクマゲラのものと同様に推察される痕跡（巣穴等）を確認したが、個体の確認はなし。

② 移植済み植物のモニタリング調査（別紙－3参照）

<調査結果>

- ・エゾノチャルメルソウ・・・平成23年度をピークに減少傾向であったが、平成29年度以降は安定している。
- ・アイズスゲ・・・・・・・・平成23年度から平成25年度にかけて一時的に増加し平成29年度以降は大幅に増加している。
- ・ナベクラザゼンソウ・・・平成21年度をピークに減少傾向であったが、平成24年度以降は安定している。
- ・エビネ・・・・・・・・平成28年度から減少傾向である。
- ・イヌマムカゴ・・・・・・・・平成28年度まで減少傾向であったが、平成29年度から回復傾向である。
- ・イトモ・・・・・・・・平成17年度に移植したが、平成19年度に消失。平成29年度に再移植した。移植後の状況は良好である。

③ 希少猛禽類調査（別紙－4参照）

<調査結果>

- ・イヌワシ・・・平成30年は巣の使用痕跡はなく、繁殖は無かった。
- ・クマタカ・・・平成30年は巣内でヒナ（1羽）を確認した。その後、巣立ちの確認はなかった。
- ・その他の猛禽類・・・平成30年はハチクマ（1羽）、ツミ（1羽）、サシバ（5羽）のヒナを確認した。

④ 魚類調査（別紙－5参照）

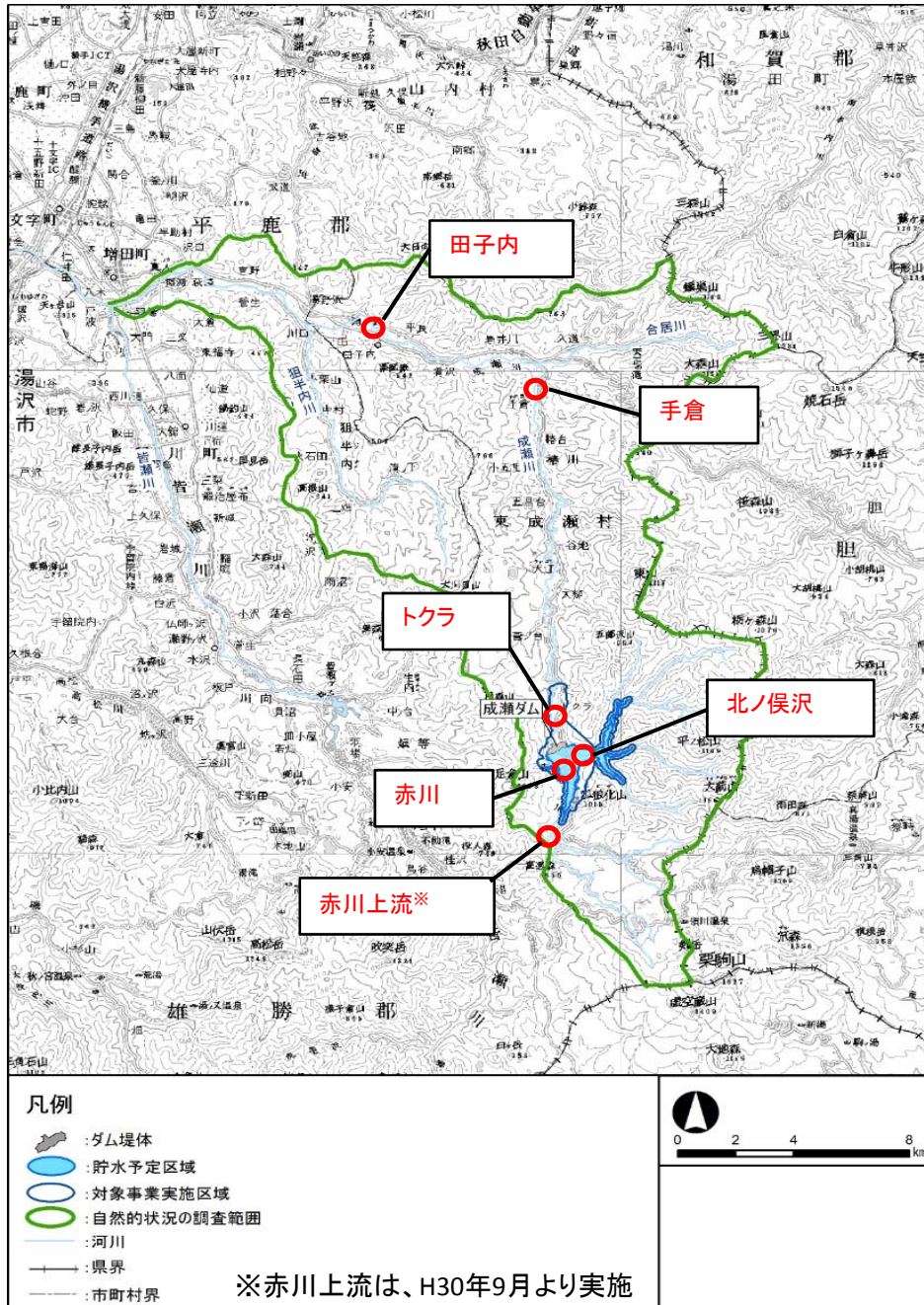
<調査結果>

- ・調査対象6種の確認状況は下記となった。
 - 成瀬川下流部（田子内地区）・・・調査対象6種を全て確認
 - 成瀬川中流部（手倉地区）・・・アユを除く5種を確認
 - 成瀬川上流部（草の台地区）・・・エゾウグイ、ニッコウイワナ、カジカの3種を確認
- ・確認個体数は下記となった。
 - エゾウグイ・・・・・・・・調査年によって確認個体数が変動しているが、顕著な減少は確認されていない。当歳魚を手倉地区で確認している。
 - ウグイ・・・・・・・・調査年によって確認個体数が変動しているが、顕著な減少は確認されていない。当歳魚は手倉地区で確認している。
 - アユ・・・・・・・・確認個体数は安定しており、全てが放流個体と考えられる。放流量は例年同程度であり、放流した個体が、安定して生息していると考えられる。
 - ニッコウイワナ、ヤマメ
 - ・・・・・・・・調査年によって確認個体数が変動しているが、顕著な減少は確認されていない。当歳魚は確認されていない。

カジカ・・・・・・・・調査年により確認個体数に変動があるが、全体的には横ばい傾向である。当歳魚は田子内地区、手倉地区で確認されている。

①水質調査 参考資料

項目		平成30年度調査内容		
		調査地点	調査項目	調査日
水質調査	工事中 定期水質調査	流入河川：赤川・赤川上流・北ノ俣沢 下流河川：トクラ地点・手倉地点・田子内地点	流量、一般項目(水温、濁度)、生活環境項目(pH、BOD、COD、DO、SS等)、富栄養化項目(アノニア態窒素、硝酸態窒素、クロロフィルa等) 健康項目(カドミウム、全ソロン、鉛等)	月1回 (赤川、赤川上流、北ノ俣沢：4月~11月) 年2回(5月、10月)



水質調査地点 位置図

②クマゲラ調査 参考資料

調査内容		
調査地点	調査項目	調査時期
事業区域周辺の3地区	<ul style="list-style-type: none">・ラインセンサス法・呼び込み法・地区センサス法	春季 ・6月下旬～7月下旬 秋季 ・9月初旬～10月中旬



平成30年度調査にて確認した
クマゲラの可能性のある痕跡

③移植済み植物のモニタリング調査 参考資料



エビネ



イトモ



ナベクラザゼンソウ



アイズスゲ



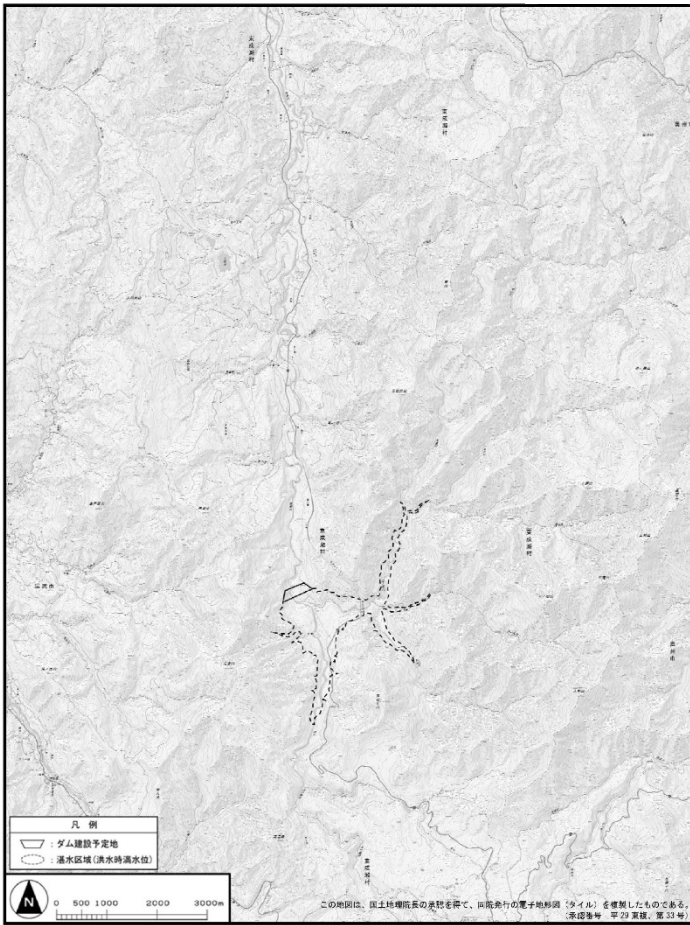
イヌマムカゴ



エゾノチャルメルソウ

移植済み植物

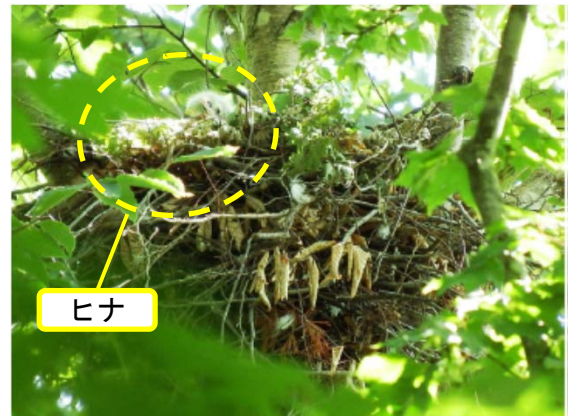
④希少猛禽類調査 参考資料



希少猛禽類 調査範囲



クマタカの巣の状況 (H30. 7. 8)



ハチクマの巣の状況 (H30. 8. 3)



サシバの巣の状況 (H30. 6. 23)



ツミの巣の状況 (H30. 6. 23)

⑤魚類調査 参考資料

調査内容		
調査地点	調査方法	調査時期
<ul style="list-style-type: none"> ・田子内地区 ・手倉地区 ・草の台地区 	採捕調査 ・定置網 ・投網	春季（6月上旬） 夏季（8月下旬） 秋季（10月上旬）

調査対象魚種



エゾウグイ



ウグイ



アユ



ニッコウイワナ



ヤマメ



カジカ

